

92名の諸君、卒業まことにおめでとうございます。

本日は、南丹市 市長様、学友会 玉田会長様 はじめ多くのご来賓の方々のご列席のもと、京都医療科学大学卒業式・学位記授与式をとりおこなえますことは、本学にとりましても、また私にとりましても、たいへん大きな喜びであります。この卒業式にご出席くださいましたご家族、関係者の方々にも、心よりお慶び申し上げます。

今日は寒いですが、明日・明後日から暖かい、さわやかな春の季節となるようです。卒業生の皆様も、今日はさわやかな気持ちのことでしょう。

ただ、皆さんがこの良き日を迎えることができたのは、皆さん自身の毎日の努力はもちろんですが、今日まで深い愛情を注いで、励ましてくださったご両親、ご家族、その他多くの人々の支援があったからこそです。

保護者の方々には、本学の教育に対して、ご理解とご協力をいただきましたことに、この場を借りて、深く御礼申し上げます。

さらに入学以来、卒業生を今日までご指導くださいました教職員全員に、学長として深甚なる感謝の意を表したいと思えます。

卒業生の皆さんは、これから全国各地の病院で、あるいは企業で、診療放射線技師として働くことになります。

ただ診療放射線技師の資格を持ったとはいえ、まだ生まれたばかりの、ひとり歩きできない赤ちゃんなのです。現場ではまだ何もできません。親のお陰で、赤ちゃんから何年もかけて成長するように、これからは現場の先輩に教えてもらいながら、一人前の放射線技師に成長してゆきます。

これからも生涯、本学の建学の精神

「品性を陶冶し、有為の技術者を養成することを以て目的とす」

を、心に留めておいてください。放射線医療の技術とともに品性、人間性を磨いてください。仕事をしていると、どのような仕事であれ、その人の人間性が現れてきます。

「一流の人間性があってこそ、初めて一流の仕事が出来るのです。」

大学生活を振り返ると、楽しいことも、苦しいこともあったことでしょう。私にとっても皆さんと一緒に食べた美味しいバーベキュー、あるいはスポーツ大会、学園祭など、楽しい思い出が一杯です。しかし、時には試験で実力が発揮できなかった時も、勉強が分からず苦勞した時も、あるいは友人関係で悩んだ時もあったはずです。皆さんはそれらの苦勞、悩みを乗り越えて、この日を迎えることができました。

放射線の医学利用、放射線診断、放射線治療は急速に進歩しています。大学では放射線の基礎から、最先端の放射線技術まで学びました。しかし、現在の最先端の技術も、数年後には新しい技術に置き換わります。皆さんはこれから 50 年近く診療放射線技師として仕事することになりますが、今から 50 年前の 1968 年。昭和 43 年。ご両親が生まれたころでしょうか、私はすでに大学生でしたが、カラーテレビが普及し始めたばかりでした。パソコンもインターネットもありませんし、携帯電話、スマートフォンもありませんでした。もちろん CT 装置も MRI 装置もまだ開発されていません。

しかし、この 50 年の間に科学は急速に進歩し、コンピュータ、CT、MRI が病気の診断、治療に欠かせなくなりました。また人工知能 AI も医療の分野に導入されようとしています。

皆さんは新しい技術を積極的に取り入れ、それをマスターし、使いこなさなければなりません。これから難しい技術、困難な局面にいくつも出会います。

それらを解決し、乗り越えてゆかねばなりません。

ただ、人生はなかなか思うようにならないものです。予定通り、計画通りには進みません。人生は挫折するものです。「その場、その場でベストを尽くす」しかありません。家族、友人、先輩、教師などに助けてもらい、励ましてもらいながら、努力し、ベストを尽くせば、必ず道は開けてきます。

本学では、難しい問題を解決する心構え、分からないことを理解する努力などを、学んだことでしょう。人は難しいことに挑戦して、成長することが出来るのです。

社会人となってからの恩返しは、両親、家族だけではありません。社会への恩返し、社会貢献しなければなりません。7年前の3月11日、東日本大震災、福島原子力発電所事故が起きました。今なお何万人という人が故郷（ふるさと）に帰れず、避難生活をしていますし、国民の放射線への不安はまだ解消されていません。

診療放射線技師は「放射線の基礎からその利用まで、系統だって学ぶ唯一の職種」です。震災直後、多くの放射線技師が、福島に行き、現地の放射線量の測定などを行いました。本校の教員、職員も交代でボランティアとして福島に行き、お手伝いしました。

放射線技師となった皆さんが、放射線の健康影響についての正確な情報を、地域の住民、国民に伝えなければなりません。また原発事故が起きた際には、放射線技師が地域のリーダーにならなければなりませんし、皆さんの知識が、周囲の方々の安全と安心につながります。

「自分のためでなく、他の人に役立つのが、最高の幸せです。」

本学は創立90周年を迎えました。創立以来90年の間に本学を卒業した4千

人余りの先輩の苦勞があったからこそ、今日があるということを忘れないでください。「卒業生の皆さんが本学をさらに発展させる」という強い自覚と責任を持ってください。本学が発展するかどうかは、皆さん如何にかかっています。

卒業生の皆さんが、4月からそれぞれの病院で、職場で、診療放射線技師として活躍され、社会に貢献する人材になられることを、心より期待しています。

皆さんの輝かしい新しい門出を祝福して、私の饞の言葉といたします。

平成 30 年 3 月 10 日

学校法人島津学園 京都医療科学大学

学長 遠藤 啓吾